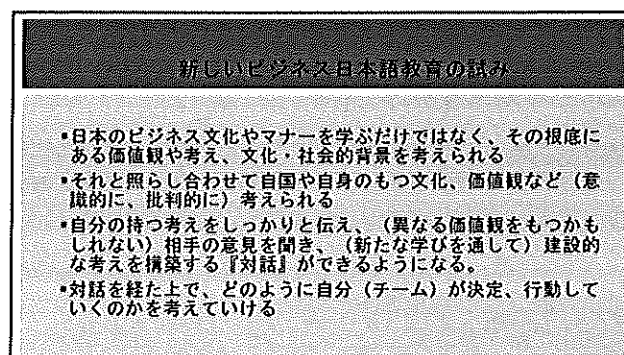
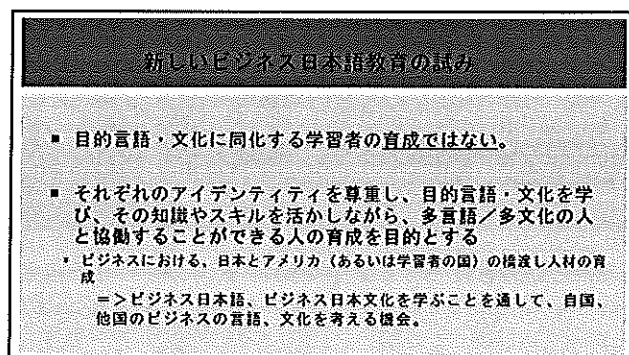
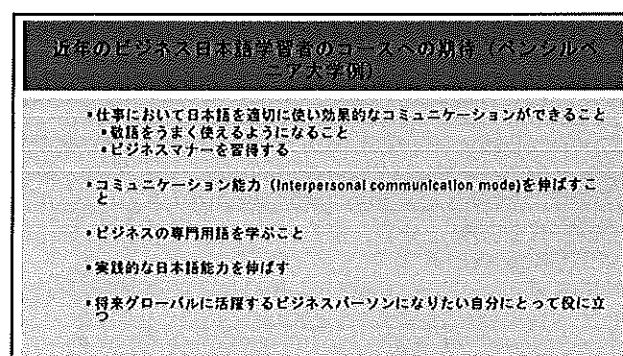
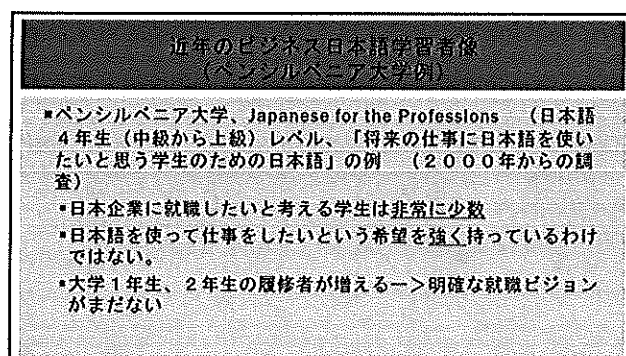
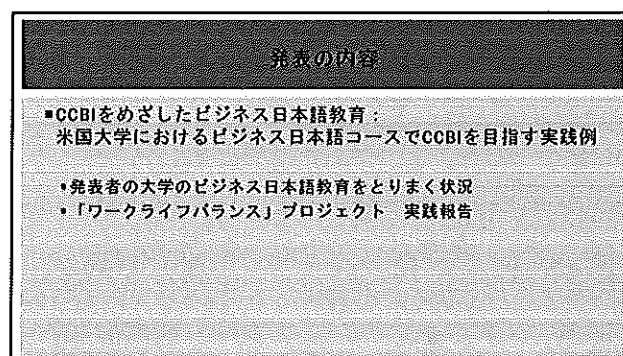
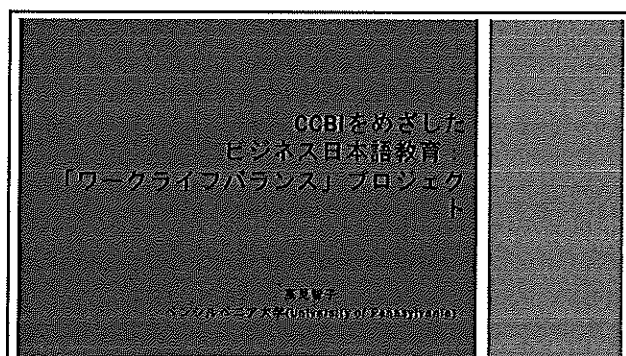




ビジネスコースの実践

・3つの柱

- 1) 仕事において日本語を適切に使い効果的なコミュニケーションができること
 - ・場面・概念・慣習シラバス、タスク重視教育
 - ・文化3P (習慣(practices)、産物(products))だけでなく、文化的な意味 (Perspectives) をきちんと考えることが重要) にも重点
 - ・日本語能力の比較
 - ・名刺交換 (行動、とその意味)
- 2) ビジネスを切り口に日本文化、社会事情を学び考えていくCBI
 - ・CBIを使ったビジネス日本語教育「中級から伸ばす：ビジネスケースで学ぶ日本語」(2014:The Japan Times)
 - ・協同学習が中心
 - ・学習者の経験や意見を踏まえた学習活動
 - ・話し合いを通してグループで一つの選択 (決定) をするようなタスク (問題解決、意思決定タスク)
- 3) プロジェクト

ビジネス日本語コースでのCBIの試み

・CBIの試み

- ・「現状だけでなく、人の意見や価値観、ひいては自分の価値観をいろいろな側面から捉えること、つまりクリティカルに分析するための技能とその知識の習得、またクリティカルな意識・視点・姿勢・態度の育成」(佐藤他、2015,p18) につながる学習活動
- ・ただ単に「読解者の書き方」「名刺交換の仕方」を学ぶのではなく、その背景にある考え方、価値観、belief、を話し合い、考察する。
- ・アメリカVS日本という二項対立的な展開にできるだけしないよう、学習者それぞれの国の状況も含む
- ・学習者の意見を尊重せず与えるセーフスペースづくり
- ・「自分の置かれた現状や社会に内在する社会的・慣習的な前提を問い直し、その価値や成義に批判的に関わっていかうとする意識・視点・態度の育成(佐藤他、2015,p18)」につながる学習活動が難しい
 - ・読解者の書き方をよくしよう。.....、用づらばい価値・輸入事

CBIをプロジェクトとしてカリキュラムに入れ込むポイント

- ・(日本の) ビジネスに関わるトピックで学習者自身と関わるもの
- ・「自分たちの未来をよりよくしていく」ためにどうしたらいいか、**というものを考えられるもの**
 - ・調査する・研究する
 - ・いろいろな考え方や意見を認め、比較検討する
 - ・対応策を考へる、行動を起こす

「ワークライフバランス」をトピックに選んだ理由

- ・異文化摩擦を引き起こしやすい問題の一つ (日本人は勤勉VS働きすぎ「(サービス) 残業」「過労死」「ブラック企業」)
- ・長時間労働は日本だけの問題ではなく、米国でもある
 - ・OECD(The Organization for Economic Co-operation and Development (経済協力開発機構))：(2017年世界38か国中の1年の一人当たりの平均労働時間数が米国は1.5倍、日本は2.2倍) 一年一人労働者長時間労働問題は日本だけの問題ではなく、米国でもある。
- ・ワークライフバランスの問題はビジネスパーソンだけではなく大学生にも関係する
 - ・ベン大の学生のワークライフバランス問題
 - ・学業のプレッシャーなどから来たとと思われる学生の自殺問題

プロジェクトの流れ

1	WS 1 1/27	クラス内	自分の国の労働状況または日本アメリカでの労働状況について、いろいろなインターネットサイトや本、論文など(2014年、英語でOK)、を調べ、レポートを日本語で書く
2	WS 1 1/27	クラス内	「アメリカ・自分の国において労働に関する日本語」自分のレポートを読み取って、その内容をクラスで20分、それらのディスカッションをする。
3	WS 2 2/3	クラス内	自分の国の労働状況または日本について調べ、レポートを書く
4	WS 1 3/24	クラス内	自分の国の労働状況または日本について調べ、レポートを書く 「日本において労働に関する日本語」自分のレポートを読み取って、その内容をクラスで20分、それらのディスカッションをする。
5	WS 1 3/24	クラス内	自分の国の労働状況または日本について調べ、レポートを書く 「日本において労働に関する日本語」自分のレポートを読み取って、その内容をクラスで20分、それらのディスカッションをする。

6	WS 2 3/14	クラス内	インターネット記事「日本のホワイトカラーの働き方の特徴」を読み取り、英語でOK、を調べ、レポートを書く
7	WS 2 3/14	クラス内	自分の国の労働状況について、いろいろなインターネットサイトや本、論文など(2014年、英語でOK)、を調べ、レポートを書く
8	WS 2 3/14	クラス内	日本人の文化と日本の労働状況についてディスカッション
9	WS 2 3/14	クラス内	自分の国の労働状況についてディスカッション
10	WS 1 3/14	クラス内	自分の国の労働状況についてディスカッション(45分) 異文化摩擦の問題を「ワークライフバランス」を読み取り、英語でOK、を調べ、レポートを書く
11	WS 2 3/14	クラス内	ワークライフバランスについてディスカッション
12	WS 2 3/14	クラス内	ワークライフバランスプロジェクトから学んだこと、考えたこと、レポートを書く

プロジェクトでの主な活動

・研究する

・自分で関連したトピックについて簡単にリサーチをし、レポートを書く
(自分の国の労働状況、日本の労働状況、大学生・コミュニティにおけるワークライフバランスの問題についてインターネットや周りの人にインタビューをするといった形で調べた。)

・いろいろな考え方や意見を認め、比較検討する

・クラスではディスカッションを主に学習活動とした。日本人の二人をディスカッションに招き1時間のディスカッションや意見、経験を開いた。

・複眼的な「ワークライフバランス事情」についての理解を深める

・二人ともエリート。一人はバリバリとサービス残業をする人。もう一人はサービス残業や「おつきあい」をできるだけしないで頑張る人。

プロジェクトでの活動

対応策を考えるプロジェクトから学んだことの振り返りをするレポートに対応策を考えるような発言や意見を入れるように指導。

学びのハイライト: 対応策を考える・行動を起こす

・自分たちのワークライフバランス(勉強、クラブ、就職活動などに忙しい)

・成功を目指して、頑張る文化。Work Hard Play Hard 自分は成功者である、自分は(優秀で)しかも友達がたくさんいる)クールという思い込み。自分は成功者ではない、一番ではない、という気持ちを持つことが大切

・Penn Face(金でがうまくいっている、私は素晴らしい)という仮面をペン大の学生はつけている。→それは本当ではない。親戚をばいでもいい。

・友達同士で助け合うことが大切(ご飯を作り合う、勉強を一緒にする、おしゃべりする)(クラブ、フラタニティ)

・(いい意味で)あきらめる。2年生、3年生で人の目を気にしなくなる。1年生のときになんか嫌なことがある。

学びの振り返り(インタビューでのコメント:大学1年生)

■宿題4は大学生のワークライフバランスのトピック。私はクラスが一番若い学生で、先輩たちからいろいろな人生経験とかに聞けるじょうけん、じょう。。アドバイスをもらいます。宿題4を書いたあとで、クラスのディスカッションで先輩たちから、ペンに対する、ペンの学生生活に関する考えをいろいろ聞きましたから、それにより、1年生としての私はたくさん体験できないようなことをみつけれられました。あの、もちろん、学生の参加する課外活動と学部に応じて違うプレッシャーと悩みとがあって、そのような経験を聞いたのは私にとってとてもいいことだと思います。

学びの振り返り(インタビューでのコメント:大学1年生) 続き

■実は私は、あの、ワークライフバランスは普通の人と比べて悪いと思います(中略)それは私の自分の選択です。実は私はワークライフバランスの悪い状況はときどき人の自分の選択からの結果だと思っています。例えば学生の基本責任はクラスの勉強と宿題を終わることだけで、でも、エリートのアイビーリーグ大学であるペン大の学生は普通の学生になりたくなくて、たくさん課外活動も参加したいです。そして、週末にもたくさんパーティーに行きたい、という思うペン大の学生にとっていつも時間がなくて、いつもストレス状態になっているのは普通のことだと思います。だからフラタニティの先輩で、勉強も就職活動も大成功している先輩はあげるアドバイスは自分が本当に好きなクラスだけをとって、4つ以下の課外活動をとって、だけに参加して、全部の暇な時間はその活動に、集中しては自分の精神と健康を守るために一番いい方法です。

プロジェクトの振り返り: アンケート調査の結果から

・プロジェクトの全体評価は比較的高い(4.375/5: 1全然よくない、2あまりよくなかった、3まあまあよかった、4かなりよかった、5とてもよかった)

・特によかったと思う勉強内容

・自分の国と日本の労働状況について調べたこと

・(記事で学んだ)日本での過労死、働きすぎに対する対応策がおもしろかった(スイスイ帰ろう、水曜日)

・日本人MBA学生とのディスカッション(実体験の話が聞けておもしろかった)

・大学生のワークライフバランス。「皆さんと一緒に話せると、自分の苦しみは私だけではなくて、ちょっと安心しました。それに同級生たちのこうしてきなこともちゃんと知りました。」

教師の振り返り

- 大学生のワークライフバランスを考えることで学生たちが、自分たちは関係がないと思っていた社会の問題を自分のことに関連して考えたことができ、それではどのように改革するか、現状を変えるかということを考えることができた。
- 生教材を使い日本語や内容を学習するいい機会となった（学習者が自分で調べるリサーチは英語。クラスでは教師が用意した。
 - 「残業」や「サービス残業」についてのドラマの一場面やニュースの動画
 - 「残業」や長時間労働についてのインターネットの記事
 - ワークライフバランスについての漫画を読む
 - 「長時間労働」（残業）についての教材を使う

反省点・改良点

- 学生たちが「ワークライフバランス」について学んだことを他の学生に発信できるような仕掛け、工夫をしたい。

ご静聴ありがとうございました